

tough 構文における基底生成分析の再考

知京 健真

1. はじめに

Hartman (2012) によると、(1a) のように、*tough* 述語と不定詞節の間に Experiencer PP が入る *tough* 構文は非文法的である。

- (1) a. Cholesterol is important (* to Mary) to avoid.
b. It is important (to Mary) to avoid cholesterol. (Hartman (2012: 87))

これは、*tough* 構文の主節の主語が不定詞節の目的語の位置から A 移動する際に、Experiencer PP 中の NP が defective intervener となり、移動を妨げるためだと説明される。対照的に、虚辞構文の同様の例 (1b) は文法的である。*tough* 構文の主語が基底生成だとすると、これらの defective intervention の効果は予測できない。本発表では、基底生成分析の立場を採ったまま (1a) の非文法性を説明する方法を提案する。

2. Saltzmann (2023) の分析とその問題点

Saltzmann (2023) は、*tough* 述語が外項に CP を、内項に Experiencer PP を取るという Longenbaugh (2016) の提案を想定している。この構造から、*tough* 述語が上位の機能主要部 F に主要部移動する (2) のような分析を行っている。

- (2) [TP Cholesterol [T' is [VP ___ [FP important [AP [CP to avoid ___] [a' ___] [AP ___ [PP to Mary]]]]]]]]

さらに、音形のない C を伴う null-operator の CP を外置することができないという Bruening (2014) の提案を想定すると、CP *to avoid* は外置できないため、*tough* 述語と不定詞節の間に PP が入る語順は派生されない。以上のように、defective intervention によるものではなく、語順から、Experiencer PP が *tough* 述語と不定詞節の間に入る *tough* 構文の非文法性を説明することができると Saltzmann (2023) は主張している。

しかし、Saltzmann (2023) の提案には問題がある。(3) に示すように、*for* 句が *tough* 述語と不定詞節の間に入る *tough* 構文の例が多く見られる。

- (3) This test is impossible for every student to fail. (Saltzmann (2023: 225))

(2) のような Saltzmann (2023) が提案した構造を用いて (3) の文を派生することは不可能だ。Saltzmann (2023) は、この *for* 句は不定詞節の主語であり、Experiencer PP とは異なると述べているが、このように考えても問題が生じる。CP が音形のある C を持つことになるため、音形のない C を伴う null-operator の CP が外置できないとしていた Saltzmann (2023) の想定とは矛盾する。CP の外置を許してしまうと、(2) のような構造から、たとえば (4) のような非文法的な文が誤って派生される。

- (4) * The hard work_i is pleasant for the rich for poor immigrants to do t_i. (Chomsky (1973: 263))

3. 提案

本発表では、Nissenbaum and Schwarz (2011) (以下、N&S (2011)) で提案されている gapped degree phrases の構造を *tough* 構文に応用できると主張する。gapped degree phrases とは、(5) で示されるように、不定詞節中に空所が見られる、程度を表す句のことである。

- (5) Berlin is too cold [for us to travel to ___]. (Nissenbaum and Schwarz (2011: 4))

不定詞節中に空所があるという点で *tough* 構文と類似しており、*tough* 構文と同様に null-operator が移動すると分析される。Chomsky (1977) によると、(6a) のように不定詞節内で null-operator が移動する。一方、N&S (2011) は、null-operator が DegP (Degree Phrase) の端まで移動する (6b) のような構造を提案している。

- (6) a. [DegP [too [Op_i for us to travel to t_i]]]
b. [DegP Op_i [too [for us to travel to t_i]]] (Nissenbaum and Schwarz (2011: 17))

次に、Boškovic and Lasnik (2003) の提案を想定する。Boškovic and Lasnik (2003) は、null C が PF affix であり、PF Merger の考えに基づき、affix は PF において host に隣接している場合のみ、host 上に音韻的に現れると主張している。本発表ではこの提案を拡張し、*tough* 構文における Deg 主要部は null な PF affix であり、その host である形容詞と隣接していなければならないと主張する。

以上の想定を踏まえ、本発表では、(7) のような構造を提案する (本発表では、主語 *John* や *be* 動詞の生起位置については扱わないこととし、便宜上 (7) のような表記としている)。



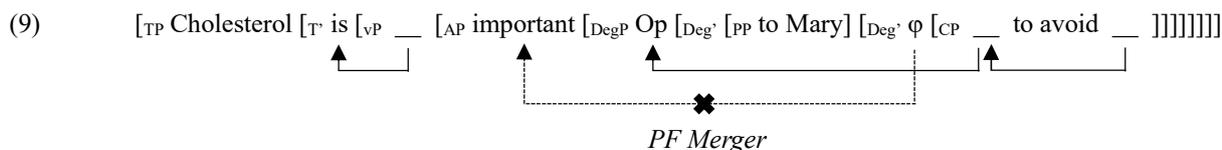
gapped degree phrases と同様、*tough* 構文にも DegP があると想定する。また、N&S (2011) の想定を踏まえ、null-operator が不定詞節の端まで移動した後に DegP の端まで移動すると想定する。このように考えることで、CP を外置することができないという想定を維持することができる。なぜなら、CP を外置すると、null-operator が元位置の痕跡を束縛できなくなり、Proper binding condition に違反するからだ。さらに、Boškovic and Lasnik (2003) の提案を踏まえ、PF affix である Deg 主要部は、PF において形容詞 *easy* と Merge する。

4. 分析

以上の提案を踏まえ、(8) に再掲する (1a) の非文法性を分析する。

(8) Cholesterol is important (* to Mary) to avoid. (= (1a))

本発表の提案を用いると、(8) の構造は (9) のようになる。



null-operator が不定詞節の CP の指定部まで移動した後、DegP の指定部まで移動する。ここで、Deg 主要部は null な PF affix であるため、形容詞 *important* と Merge しなければならない。しかし、PP *to Mary* がこの位置にあると、それらが隣接できなくなってしまい、Merge が妨げられる結果、非文法的となる。

一方、(10) に再掲する (3) で示される、*for* 句を伴う *tough* 構文の例では、*for* 句が不定詞節の主語であると考えれば問題とはならない。(10) の構造は (11) で示される。

(10) This test is impossible for every student to fail. (= (3))



この場合、形容詞 *impossible* と Deg 主要部の間には *for* 句 *for every student* が位置していないため、形容詞と Deg 主要部が隣接することができ、Merge が妨げられることはない。

5. 結論

本発表では、Nissenbaum and Schwarz (2011) が提案した gapped degree phrases の構造を *tough* 構文に応用できると主張した。さらに、Boškovic and Lasnik (2003) の null C に関する PF Merger 分析を拡張させ、Deg 主要部も null な affix であると主張した。その結果、Hartman (2012) が提示する長距離移動分析を支持する例だとされてきたデータを、基底生成分析を採ったまま説明することができた。

参考文献

- Boškovic, Željko and Howard Lasnik (2003) "On the distribution of null complementizers," *Linguistic Inquiry* 34, 527–546.
- Bruening, Benjamin (2014) "Defects of defective intervention," *Linguistic Inquiry* 45.4.707–719.
- Chomsky, Noam (1973) "Conditions on Transformations," *A Festschrift for Morris Halle*, ed. by Stephen R. Anderson and Paul Kiparsky, 232–286, Holt, Rinehart and Winston, New York.
- Chomsky, Noam (1977) "On Wh-Movement," *Formal Syntax*, ed. by Peter Culicover, T. Wasow and A. Akmajian, 71–132, Academic Press, New York.
- Hartman, Jeremy (2012) *Varieties of Clausal Complementation*, Doctoral dissertation, MIT.
- Longenbaugh, Nicholas (2016) "Non-intervention in *Tough*-constructions." *NELS* 46 (2), 293–306.
- Nissenbaum, Jon and Schwarz, Bernhard (2011) "Parasitic degree phrases," *Natural Language Semantics*, 19:1–38.
- Saltzman, Martin (2023) "Experiencer Intervention in English *Tough* Movement: Evidence from Extraction of the *Tough* Adjective Against Syntactic- and Semantic-Intervention Accounts," *Syntax* 26, 223–249.